

〔巡検会紹介〕

## 湖東中学校、錦丘中学校の地質巡検会

一昨年の秋より、湖東、錦が丘両中学校で理科の野外活動の一つとして実施されている熊本市東方の地質巡検会について、その内容を紹介する。

中学校理科の二分野の指導にあたっては、教室を野外に移して、実際に、実物を観ながら生徒に学習させることが、最も重要な事であるが、他教科との時間割との関係や、理科教師の不足、等あって、ほとんど実施されていないのが現状であろう。その中において、定期的な野外活動を計画し、実施されている両校の先生方の努力には、頭の下る思いである。

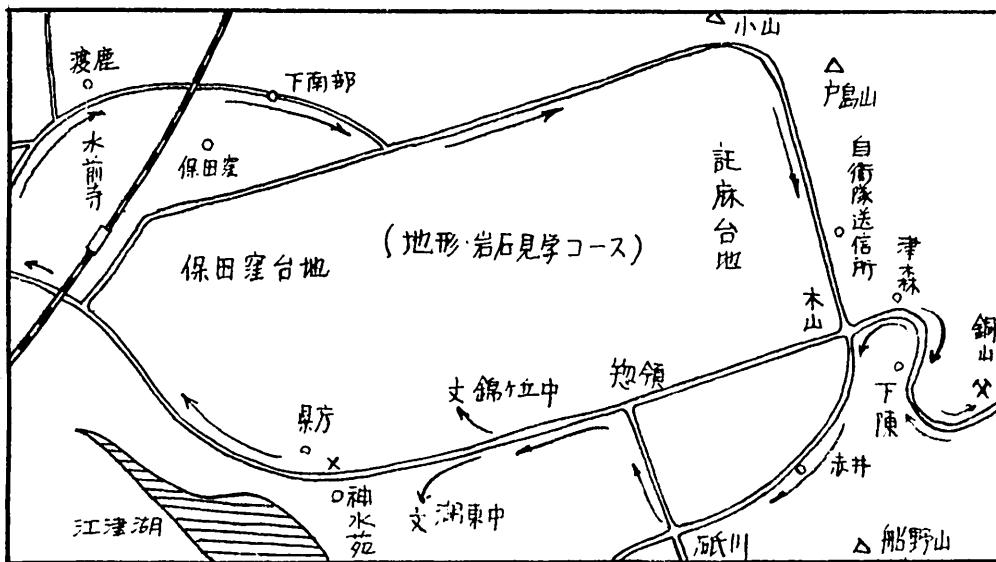
この巡検会の発案者は、本熊本地学会の会員の一人でもある湖東中の甲斐有男先生である。会は、春と秋の日曜か祭日とその日にあてられ、各学年毎に行なわれている。理想としては、全生徒参加がのぞましいのであるが両校合わせても指導にあたる理科教師が足り

ず、今のところでは、参加者は、各学年の希望者である。巡検の方法は、借切りバスを利用。巡検地は、両校が熊本市の東方に位置するため、熊本市東方の地域が選ばれている。

その巡検ルート(図参照)について簡単に紹介してみよう。

午前8時頃、健軍町、神水苑に集合、まず園内の湧水を観る。そのあと、バスに乗車、バス内で、その日の巡検予定を説明。説明をすませたところに、バスは市街地をはなれ、竜田口方面の台地へでる。白川の蛇行、川の水の流れ方(河原の出来る様子、流れの強い所弱い所、など)を観る。合わせて、両岸に顕著にあられている段丘、及びその砂礫層を観察。さらに、小山、戸島方面へ向う。この間車中で、車窓に展開する保田窪面、託麻面、等の各段丘の様子、出来かたなどを、観、又説明を聞く。小山、戸島では、これらの砂礫層の基盤をなす白亜系の堆積岩を観る。ここ

巡 検 ル ー ト



では、地層の褶曲、断層なども説明される。小山戸島をはなれ、木山へ向う。その途中、台地上にきざまれはじめた幼年期地形を思わせる河の様子や、台地上から眺められる熊本平野、及びその周りの地形をみる。木山では阿蘇の火山性砕砕岩類を観察、又木山川上流の河原で、阿蘇の溶結凝灰岩や安山岩類の転石を採集。津森にはいり、バスを降り、津森の銅山跡へ向う。途中で津森の新第三系泥岩中より、植物化石を採集。又、その上部に重なる安山岩礫を主とする礫層との不整合等を観察、さらにすすんで、木山の変成岩帯では主に標本採集、又、途中で、変成岩を貫ぬいている蛇紋岩の岩脈をみる。銅山で中昼、キースラーガーを観たあと下山、バスに帰る。それより一たん木山まで帰り、赤井を経て砥川に向う。赤井で、そうめん滝（赤井の湧水源）をみたあと、砥川の河原で、安山岩の板状節理を観察、河原において、安山岩の採集、又、上流から流れてきている御船層群

の緑色凝灰岩、赤紫色泥岩等も採集。そのあと、一路、健軍めざして帰路につく。

以上が、その巡検の内容であるが、この巡検にあたって、生徒には、あらかじめ、各種の文献より選択された地質図や、説明用のパンフレットが用意されている。

さて、ここで述べた巡検地は、ほとんど本地学会でも巡検地として廻った所であるが、標本採集地が、津森銅山付近と小山戸島付近をのぞけば、河原の転石となっており、いくつかの全然観察していない御船層群や阿蘇の溶結した凝灰岩の露頭の標本も採集することになるので、やや不満な点が残るが、この地域にかぎればやむおえないのかとも考える。

この様な、積極的な野外実習が、もっと多く計画され実施されることを願って、紹介を終わりたいと思う。又、甲斐先生は、熊本市の北部、西部、南部地域の巡検ルートも考えてみたいとはりきっておられる。今後の成果を期待したい。 尙綱高 田代正之記